PAT-NO:

JP404288098A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04288098 A

TITLE:

PEPTIDE INHIBITING DIPEPTIDYL

CARBOXYPEPTIDASE

PUBN-DATE:

October 13, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

OKADA, SHIGETAKA KUSAKA, KANAME NAGAMORI, YOICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

EZAKI GLICO CO LTD

N/A

APPL-NO:

JP03074581

APPL-DATE: March 14, 1991

INT-CL (IPC): C07K007/06, A61K037/64 , C07K005/08 ,

C07K005/10 , C12N009/99

, C12P021/02

### ABSTRACT:

PURPOSE: To provide the subject novel peptide inhibiting a dipeptidyl carboxypeptidase having a vosopressor activity, ordinarily added to foods to normally maintain the blood pressure of a body without causing adverse actions even when continuously taken in the body.

CONSTITUTION: The microorganism Bacillus 3-16-20 strain separated from soil is inoculated on a medium containing a broth. a polypeptone, W.

glucose, salt, etc., cultured for 4 days, and subsequently subjected to a centrifugal separation. The supernatant is separated, adjusted to a neutral pH and subsequently purified by a gel filtration or negative phase chromatography to provide the objective peptide having a structure of the formula (X, Z are lacked or amino acid or peptide residues, respectively; Y is amino acid) and inhibiting a dipeptidyl carboxypeptidase having a vosopressor activity.

COPYRIGHT: (C) 1992, JPO&Japio

07/16/2003, EAST Version: 1.03.0002

(19)日本国特許庁(JP)

# (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出顧公開番号

特開平4-288098

(43)公開日 平成4年(1992)10月13日

(51) Int.CL.	識別記号			庁内整理書号	F I	技術表示簡明	
C07K	7/06		ZN	A Z	8318-4H		
A 6 1 K	37/64		ABI	U	8314-4C		
C07K	5/08				8318-4H		
	5/10				8318-4H		
# C12N	9/99						
						審査請求 未請	求 請求項の数4(全 3 頁) 最終頁に続く
(21)出顧書号		特觀平3-74581				(71)出憲人	, 000000228
	-						江崎グリコ株式会社
(22) 出費日		平成3年(1991)3月14日			月14日		大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号
						(72) 発明者	F 質田   茂孝
					•		东良県生駒市東生駒3丁目207-209
						(72) 発明者	1 日下 要
						•	大阪市平野区長吉出戸6丁目6-15
						(72) 発明者	· 長森 陽一
							大阪府吹田市末広町15-7-202

(54) 【発明の名称】 ジペプチジルカルポキシペプチダーゼを阻害するペプチド

## (57)【要約】

【目的】 食品の一部として摂取し、血圧を下げること を可能とする。

【構成】 アミノ酸がX-Pro-Y-Pro-Zの様 に結合したペプチドであって、Yはアミノ酸、X及びZ はそれぞれアミノ酸あるいはペプチドであるか、Xまた はZはなくてもよい。 1

#### 【特許請求の範囲】

【前求項1】 下記構造を有することを特徴とするジベ プチジルカルボキシペプチダーゼを阻害するペプチド

X-Pro-Y-Pro-Z

(ただし、XまたはZは欠害しているかまたはアミノ酸 あるいはペプチドを表し、Yはアミノ酸を表す。)

【請求項2】 微生物の培養液より採取したことを特徴 とする請求項1配載のジペプチジルカルボキシペプチダ ーゼを阻害するペプチド。

【謝求項3】 XがGly、YがPhe、及びZがIl e であることを特徴とする請求項1配載のジベプチジル カルボキシペプチダーゼを阻害するペプチド。

【請求項4】 Xが欠落しまたはGlyであり、YがP heであり、かつZがIleまたは欠落したテトラペプ チドであることを特徴とする請求項1記載のジペプチジ ルカルボキシペプチダーゼを関奪するペプチド。

### 【発明の詳細な説明】

[0001]

ジペプチジルカルポキシペプチダーゼ(以下、DCPa seという) を阻害するペプチドに関するものである。 [0002]

【従来技術および課題】 DCPaseは、タンパク質や ペプチド館のカルポキシ末端よりジペプチド単位でペプ チド結合を加水分解する酵素である。この酵素の代表的 なものとしては生体内のアンジオテンシン変換酵素(以 下、ACEという)があげられる。

【0003】ACBは体内においてデカペプチドである アンジオテンシン I に作用して血圧の界圧物質であるア 30 ンジオテンシンIIをつくり、また降圧物質プラジキニン に作用してこれを不活性化させるため強い昇圧効果を発 揮する。このため、ACEを不活性化することは、血圧 上昇抑制に大きな効果があると期待される。

【0004】一般にDCPaseを阻害する物質を取得 する研究は昨今、さかんに行われている。

【0005】かような阻害物質を発見するには実験上、 DCPaseを適当な基質に反応させ、その概各種の物 質を添加してその阻害活性の有無を測定するという簡単 な手順でよいので、微生物培養物のほか自然界に存在す 40 る各種の物質、合成ペプチドおよびその誘導体などいろ いろなものについて研究されている。日常食品の中では 茶の抽出物などが有効であるが、経口投与によっては、 **煮外にも着しい血圧の低下は報告されていない。その意** 由は、おそらく体内への吸収が困難なためであろうと考 えられる。体内に吸収され血管中を循環してはじめて降

圧効果が発揮されるからである。

【0006】さて、タンパク質やその分解物であるペプ チドを経口投与すると完全にアミノ酸に分解されていな い高分子の状態でもよく吸収されることは広く知られて いる。そこでDCPaseに対して阻害活性を有するべ プチドを経口投与すれば、これがそのまま体内に吸収さ れ、血液中に提入することになり、DCPase阻害活 性を示すことが期待される。

2

【0007】DCPase阻害剤の検索に使用するDC 10 Paseは普通、動物起源のものが使用されている。た とえば丸山らの文献ではウサギ肺起脈のDCPaseが 使用されている (Agric. Biol. Chem. v 0 | 53, 1077-81, 1989他)。本発明者ら は截生物にもDCPase生産菌が存在することを発見 し、その酵素が作用の上でDCPaseに属するが、作 用様式上は動物起源のものとかなりことなったものであ ることを報告した (Agric. Biol. Chem. vol54, 999-1005, 1990).

【0008】そこで微生物DCPaseの反応を阻害す [産業上の利用分野] 本発明は、血圧上界効果を有する 20 る物質を発見すれば、これまで報告されたものとはこと なる全く新規の経口投与可能な阻害物質を発見できるか も知れないと考えた。

[00009]

【課題を解決するための手段】各種の放線菌を中心とす る培養液について微生物DCPase図書話性を検索し たところ数種の菌株の培養建設が配容活性を示した。そ のうち、もっとも強力な活性を示すものを分離精製し た。分離着製法は常法であり、たとえば後記する実施例 1の如くである。これをアミノ酸シーケンサで分析した ところGly-Pro-Phe-Pro-Ileであっ た。またペプタイド合成装置によりGly-Pro-P he-Pro-Ileを合成したところ、あきらかに微 生物DCPase狙害活性を示した。また、非常に興味 探いことにはウサギ肺由来のDCPaseに対しても、 **阻害活性を示すことを見いだした。微生物DCPase** に対するICsoは40μM、ウサギ肺由来DCPase に対するICioは200μMであった。

[0010] Gly-Pro-Phe-Pro-Ile を合成するとき、同時にPro-Phe-Pro-I1 e、Gly-Pro-Phe-Proを合成したがこれ らのものは表1に示すように、いずれも阻害活性を示し た。また作用はやや低下したがウサギDCPaseも肛 客した。

[0011]

【表1】

ウサギ 微生物 DCPasc DCPasc 3

Gly-Pro-Phe-Pro Pro-Phe-Pr -Ile

【0012】一般に、本願物質はX-Pro-Y-Pr 0-2で示すことができる。

[0013]

. .

Phe-Phe-Val-Ala-Pro (CEI: )

Ala-Val-Pro-Tyr-Pro-Gln-Arg (CEI & )

など数多くあるがX-Pro-Y-Pro-Zの概念に 当てはまるものは報告されていない。

研究中、本酵素は他のタンパク質に比較的よく反応する にもかかわらず、牛乳カゼインにはほとんど反応しない ことが認められた。この原因を追究中、意外にもカゼイ ンのC末端付近にX-Pro-Y-Pro-Zの概念に あてはまる構造が存在することを発見した。すなわち末 婚に本構造が存在するために反応しないものと考えられ る。これから考えると、カゼインからこの部分のみを特 異的に機能する手段を開発すれば、その物質はタンパク 質の分解物であり食品衛生上安全性は高く、血圧低下能 力をもつ興味ある食品素材になるものと信じられる。 [0015]

【実施例】 〔例1〕 ワックスマンの培地で土壌中より分 離したBaciilus属の一菌株を培養し、培養液を 遠心分離することにより上情被を得た。この上情被のp Hを中性に調整したのち、Q-セファロース、S-セフ ァロース、セップパックミニカラム(ウオーターズ 製)、ODSカラムにより精製ペプチドを得た。

【0016】この精製ペプチドを島津製PQS-1ペプ チドシークエンサーにより構造分析し、Gly-Pro -Phe-Pro-Ileであると決定した。

【0017】 (何2) 0. 5%肉エキス、0. 5%ポリ ペプトン、1%グルコース、0.5%食塩を含む筍地を pH?. 0に調整し、殺菌後、パチルス3-16-20 株を接種し、4日間培養した。培養後、遊心分離によっ て箇体を分離し、5Nアンモニア水でpHを7.0に調 巻した。

【0018】この上清波をQーセファロース、およびS ーセファロースのカラムに通して通過する部分を収集す る。さらにセップパックミニカラム(ウオーターズ)お よびTSK-ODS80Ta カラム (東ソー) によって 40 つものといえる。 分取して精製ペプチドを得た。このペプチドは逆相クロ

マトグラフィーであるTSK-ODS80T カラムで 単一ピークを与えたので鈍品であると結論した。

++

++

ase阻害活性を示すものとしては、

\*【作用】これまでプロリンをふくむペプタイドでDCP

[0014] 更に興味あることは、微生物DCPase 10 [0019] (微生物DCPaseに対する阻害活性の 湖定法〕趾害活性は以下の方法により、湖定した。サン プル被50μ1にDCPase精被50μ1を加えて4 0℃で15分間保つ。その後10mMペンゾイルーグリ シルーアラニループロリン100µ1を加えて40℃で 60分間保ったあと1N塩酸で反応を停止する。この反 応被中に生じたアラニループロリンをHPLCで測定す る。この値をAとする。反応停止後にサンプル被を加え た溶液のアラニループロリン量をBとすると阻害率は、 次式で表される。

> 20 [0020] 阻害率= (B-A) /B×100(%) 【0021】〔ウサギ肺由来DCPase阻害活性測定 法〕阻害活性は以下の方法により測定した。サンプル被 50μ1にウサギ肺由来DCPase溶液50μ1を加 えて37℃で15分関保つ。その後10mMペンゾイル - グリシルーヒスチジルーロイシン100μ1を加えて 37℃で60分間保ったあと1N塩酸で反応を停止す る。この反応被中に生じたペンゾイルーグリシンをHP LCで測定する。この値をAとする。反応停止後にサン プル被を加えた溶液のペンパイルーグリシン量をBとす 30 ると阻害率は、

**阻害率= (B-A) /B×100 (%)** の式で表される。

[0022]

【発明の効果】上述のように本願物質はDCPaseを 阻害するので血圧上昇を阻止し、体内血圧を正常に保つ 効果を有している。しかも、経口投与が可能であり、直 常長会される会品中にこれを据入しておけば、知らず知 らずのうちに血圧が正常化でき、さらに医薬品と異な り、連続摂取にも副作用がでない点、すぐれた効果をも

フロントページの競き

(51) Int. Cl. 4

識別配号 户内管理器号

A 8214-4B

FI

技術表示信所

C 1 2 P 21/02

(C12P 21/02

C12R 1:07)

C07K 99:00